京都中央市場新聞

〈発行所〉
京都市中央卸売市場協会
郵便番号　600-8847
京都市下京区朱雀分木町
京都市中央卸売市場
（関連11号棟２階）
電話　075－323－6777
ＦＡＸ　075－323－6778

輝かしい時代のスタートを京都から

京都市長　門川大作

あけましておめでとうございます。

昨年は、地震や豪雨、度重なる台風等に見舞われ、自然の脅威を思い知らされる一年でした。京都市でも、長期の停電、家屋や文化財・公共施設、農林、道路などに大きな被害が発生。しかし、尊い命は守られました。これは、消防団や水防団、自主防災会等の皆様の御尽力があればこそ。御尽力いただいた全ての皆様に心から感謝申し上げます。これらの災害をしっかりと総括し、今後の安心安全のまちづくりへ教訓としてまいりますが、改めて京都の「地域力」「人間力」を目の当たりにし、困難を乗り越えて更なる発展を遂げる「レジリエント」なまちの真髄を見出した思いです。これらの「京都力」を地域における子どもたちの学び、育ち、高齢者や障害のある方が生き生きと命を輝かせるまちづくりへ、共々に生かしてまいります。

そして本年。京都のまちを更にパワーアップさせる機会が目白押しです。京都経済百年の計「京都経済センター」の開設で、中小企業・地域企業を元気に！JR「梅小路京都西駅」の開業、日本初開催となる「国際博物館会議（ICOM）京都大会」、市美術館のリニューアルオープンも来年度中に。5年連続で保育所等待機児童ゼロを達成した子育て支援、指定都市トップとなった市立小学生の学力など成果を確認し、更なる充実へ。福祉、環境、景観、安心安全、伝統産業等の振興につながる観光、町家の保全、持続可能なまちづくりなど、引き続き市民の皆さんと共に汗する「共汗」で、全力投球してまいります。

ラグビーワールドカップ、東京オリ・パラ、そして2021年には世界最大の生涯スポーツの祭典「ワールドマスターズゲームズ関西」、さらに機能強化した新・文化庁の京都への全面的移転が控えています。2025日本万国博覧会（大阪・関西）の開催も決定！これらを機に、文化の力を市民の皆さんの豊かさにつなげ、持続可能な社会を目指すSDGs（「誰一人取り残さない」を理念に国連が掲げる17の取組目標）の達成にも貢献していく決意です。平成に続く新たな時代が幕を開ける本年。京都が世界の人々の幸せと平和に貢献すべく、共々に。

皆様のこの一年の御多幸をお祈りします。

新たな年号と変化が始まる年に

京都市中央卸売市場協会会長　内田隆

新年あけましておめでとうございます。京都市中央市場の関係者の皆様には、ご家族お揃いでお健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年、5月26日に池本周三前京都市中央卸売市場協会会長がご逝去され、6月15日の総会で新会長に就任いたしました。会長を半年間務め、初めて迎える新年になります。故池本氏には到底及ばないながらも、今年も努力研鑽して参りますので、ご理解ご協力のほどよろしくお願いします。

昨年は、市場の整備事業が一段と本格化した年でした。4月に塩干仲卸店舗が、11月と12月に鮮魚仲卸店舗が仮設店舗に移転されました。特に鮮魚仲卸店舗は、台風の被害により一部の移転が1ヶ月遅れ、市場協会が事務局を務める移転協議会も臨機応変な動きが求められました。夏まつり・鍋まつり・食彩市も場所や内容の変更があり、関係者の皆様にはご迷惑をおかけする場面もありましたが事故なく盛大に開催できました。改めてお礼申し上げます。

そして、豪雨や台風など災害の多い年でした。この京都にも被害がもたらされ入荷が一時不安定になりました。中央卸売市場の役割の一つは、生活に欠かせない生鮮食料品を安定して供給することであり、災害のときこそ食の拠点としての必要性が高まる。そのように実感した年でもありました。

今年は、4月に平成が終わり、5月から新天皇のもと新しい元号に切り替わります。10月には消費税増税があります。さらに、昨年成立した改正卸売市場法が施行に向けて動き出します。京都市の条例改正に向けた議論も深まっていきますが、市場間競争に勝てる市場、生産者と消費者の信頼を得られる市場にするために一致団結して臨まねばなりません。

施設整備では、花屋町駐車場棟が本格オープンし、10月からは七本松立体駐車場の使用が始まります。場内事業者・買出人の利便性が向上するよう、市場協会として管理・運営を行っていく所存です。

新しいことが次々と押し寄せてくる年になりますが、京都市中央市場は全国で最初に開設され、先輩方が91年間をかけて素晴らしい礎を築いてこられました。食の安全・安心を守る京の台所、京の食文化を守り伝える市場として、温故知新の年になるよう100周年に向けて歩んで参りたいと存じますので、よろしくお願い申し上げます。

平成31年水産・青果仲卸組合初市式

平成30年1月5日(土)水産、青果の各仲卸組合主催の初市式が行われた。

【京都全魚類卸協同組合】

午前4時50分鮮魚卸売場で、織田良幸常任理事の司会で開催。勝村一夫理事長は「昨年の引越しでは1ヶ月遅れた6社に迷惑をかけた。京都市場は京都市民の台所として安全・安心を担保し、世界の人が憧れる食文化を支えねばならない」と新年の挨拶を行い、古井幸生京都市中央市場長は「今年は年号も変わり新しい時代に入る。『京都に京都市場があってよかった』と言われるよう引き続き素晴らしい市場づくりに皆様のご理解ご協力をお願いしたい」と祝辞を述べた。浅田佳史株式会社大水京都支社執行役員支社長のあと、田村靖也副理事長の三本締めで締められた。

【京都塩干魚卸協同組合】

午前5時塩干卸売場で、高橋敦男常任理事の司会で開催。辻泰三理事長が「昨年は仮設店舗に移り、新たな営業の第一歩を踏み出した。今年は卸売市場法施行に向けた議論や消費税増税があり、組合員が力を合わせて頑張っていく」と挨拶し、古井場長と大石光二大京魚類株式会社代表取締役社長が祝辞を述べた。最後に、加藤久雄副理事長の三本締めで締められた。

挨拶する古井幸生京都市中央市場長

【京都中央市場青果卸売協同組合】

午前5時35分果実卸売場で、武村一路事務局長の司会で開催。中川恵司理事長が「平成最後の新年。昨年は自然災害等で相場や入荷の変動があった。今年も市場整備や法改正、消費税など厳しい問題があるが、力を合わせて乗り切っていきたい」と挨拶したあと、古井場長、内田隆京都青果合同株式会社代表取締役社長が祝辞を述べた。最後に谷口清茂副理事長の万歳三唱で締められた。

【京都野菜卸売協同組合】

午前5時45分近郷野菜卸売場で、樋口清美事務局長の司会で開催。久世明理事長が「昨年、卸売市場法が改正され、施行に向けて進んでいる。開設者とともにより良い条例を作り、円滑な市場運営を目指す。仲卸として、生産者・消費者の信頼を得て、生鮮野菜を供給していく」と挨拶し、古井場長、内田社長が祝辞を述べた。最後に、北川幸夫全国農業協同組合連合会滋賀県本部本部長の万歳三唱で締められた。

京都市中央卸売市場
京都市中央卸売市場協会
会長　内田隆
副会長　勝村一夫　副会長　中川恵司
副会長　大石光二　専務理事　東村昌樹

謹賀新年

京都市中央卸売市場
京果グループ
京都青果合同株式会社
取締役名誉会長　内田昌一
代表取締役社長　内田隆

京都市中央卸売市場
大京魚類株式会社
代表取締役社長　大石光二

京都市中央卸売市場
株式会社大水京都支社
代表取締役社長　真部誠司
執行役員支社長　浅田佳史

京都市中央卸売市場
京都中央市場青果卸売協同組合
理事長　中川恵司
副理事長　金森勝則
副理事長　谷口清茂

京都市中央卸売市場
京都野菜卸売協同組合
理事長　久世明
副理事長　粟津徹
副理事長　北尾新一郎

京都市中央卸売市場
京都全魚類卸協同組合
理事長　勝村一夫
副理事長　浅見直幹
副理事長　田村靖也

京都市中央卸売市場
京都塩干魚卸協同組合
理事長　辻泰三
副理事長　加藤久雄

京都市中央卸売市場
京都中央綜合食品協同組合
理事長　原田光佑
副理事長　河原昭雄
副理事長　大谷啓子

京都市中央卸売市場
関連事業者連合会
会長　澤田利之
副会長　竹市善三　副会長　西田智昭
副会長　原隆雄　副会長　北川原一貴

京都市中央卸売市場
京都青果物小売協同組合
理事長　石塚清三
副理事長　松田隆男
専務理事　木村信治
常務理事　中村清二

京都市中央卸売市場
京都水産物小売団体連合会
会長　岡本勲
副会長　北倉弘款
副会長　人羅賢司
副会長　井山修一

京都市中央卸売市場
京都水産物商業協同組合
理事長　岡本勲
副理事長　藤田洋
副理事長　大隈勇三
副理事長　河合孝治

京都
中央信用金庫
理事長　白波瀬誠
執行役員市場支店長　上田亮

京都市中央卸売市場
京都バナナ加工株式会社
代表取締役社長　内田隆

年頭所感

古井　幸生
京都市中央卸売市場第一市場長

昨年は水産部門の仮設移転が完了し、新水産棟の整備工事に着手することができました。大変な御理解と御協力を賜り、深く感謝申し上げます。正念場が続きますが、皆様と力を合わせながら、再整備を着実に進めてまいりたいと考えております。

また、卸売市場法改正の趣旨を十分に踏まえ、取扱数量の更なる増加等につながるよう、京都ならでは取引ルールの策定に向けて精力的に議論を重ねてまいります。

今後とも、京都の宝である第一市場の発展に全力を尽くしてまいる覚悟でございますので、一層の御指導、御鞭撻を御願い申し上げます。

中川　恵司
京都中央市場青果卸売協同組合理事長

昨年は、全国的に自然災害に見舞われた1年でした。

台風や豪雨での被害、私達の京都も大阪北部地震・台風など、近年にない被害を受けました。今年も施設整備・市場法改正に伴う条例改正や軽減税率制度が10月から行われます。我々の取り巻く状況が一変しようとしています。

「温故知新」という言葉どおり、過去の経験を生かして新しい知識や見解を得ることに取り組みたいと思います。今後も皆様のより一層のご理解とご協力をお願い致します。

原田　光佑
京都中央綜合食品協同組合理事長

今年は平成の30年が終わり皇太子殿下が即位され新しい元号の年が始まります。

その30年後を皆さん想像してみてください。人口の減少、高齢化、地方の空洞化など、負の要素がいっぱいです。そして我々のお得意様である小売店は大型店舗やコンビニにおされ後継者不足で廃業を余儀なくされている。

今年の初夢、この場所が日本で一番古い中央市場があったところですというモニュメントが建ち公園になっている…すべてが杞憂でありますように。

内田　隆
京都青果合同株式会社代表取締役社長

昨年、我々の業界にとっての大きなニュースは、将来を大きく左右する「改正卸売市場法」の公布でした。政省令や基本方針も決まり、卸売市場の必要性は認められましたが、時代の変化に伴い、我々は自己変化して行かなければならない事は明白です。

京都市場の整備が本格化する中、今年10月には、消費税10％への引上げと軽減税率の導入も予定されています。

今後とも様々な変化に対応しつつ、我々の果たす役割をしっかりとアピールして行きましょう。

久世　明
京都野菜卸売協同組合理事長

昨年は野菜類におきましては、西日本豪雨と大型台風など、天候不順により入荷量が減少し、消費が一段と伸び悩み、厳しい1年ではなかったかと存じます。

この市場の建替計画が始まり、水産物部の仮設店舗への移転が終わり、私どもの青果部はまだ先ですが、開設者との移転に向けての協議は順次行なっており、よりよい市場を作りたいと考えております。

今年こそ経済が活性化することを切望し、この京都市場の停滞を打破し、活力のある市場づくりに頑張ってまいる所存です。

澤田　利之
京都市中央卸売市場関連事業者連合会会長

私ども関連事業者連合会は、90周年から１００周年の10年間において、京都市並びに京都市中央市場に何が役に立てるかを自分の頭で考え、貢献して参ります。

また、市場整備におきましては会員並びにそのご家族に多大なご負担を掛けるかと思いますが、新しい世代に向けた市場作りに協力して行かねばなりません。今後、１００周年に向けて、京都市中央市場の名誉と役割を守り、我々関連事業者連合会は明るく開かれた市場に貢献したいと考えます。

大石　光二
大京魚類株式会社代表取締役社長

昨年は、地震や猛暑、連続してやってきた大型台風、またスルメイカの不漁や期待が外れた秋鮭など厳しいことが多い1年でありました。そのような中、弊社は創立70年を迎えることができ、関係者の方々に対し改めて深く感謝します。

今年は「市場施設整備計画」が更に本格化します。仮設の運営、4年後の本設完成に向け行政と業界が協議を進めていきます。また市場法改正に対しては、当市場の存在価値・競争力を高められるよう改善することに取り組んで参ります。社員一同、何事にも誠実をモットーに1つ1つの商いを大切にして参ります。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

勝村　一夫
京都全魚類卸協同組合理事長

昨年は激動の年でした。5月26日に池本周三前理事長がご逝去され、存在の大きさを改めて知ることとなりました。そして9月に発生した台風のため組合員50名揃っての仮設移転が実現できず1ケ月遅れの12月6日に全員の移転が完了致しました。

今般施行される新卸売市場法において中央卸売市場が日本の食の流通拠点として、改めて位置付けされたことは喜ばしい限りですが、年々減少する取扱高を考えると業界を取り巻く環境の悪さに不安を感じてしまいます。

今後は時代を見据え、今私たちに求められていることに真摯に向き合い新たなマーケットを求めて、私たち自身が変わることを心に誓い…。

石塚　清三
京都青果物小売協同組合理事長

漢検発表の昨年の漢字は「災」。国内外で、人為、外交、自然界の「災」が、「輝」かしい業績を覆ってしまいました。

当組合内の平成30年の特筆は、市場内駐車利用料を全面援助。「食文化教室」を月桂冠の協力で実施。「寿司とお酒」に60人が聴講。また、店舗業態の聞き取りを開始しました。今後は、五輪、万博に照準をあわせ、市場内小売業組合の未来づくりに、一矢を放つ、提言・事業展開を目指す所存です。

浅田　佳史
株式会社大水京都支社執行役員支社長

昨年は「今年の漢字」に選出された『災』に象徴されるように、本当に多くの災害に見舞われた年となりました。被災された方々を思うと心が痛みます。

今年の京都市場は「本設」の設備工事がスタートし、新市場建設に向けた動きが本格化してまいります。未来への扉が開く一方で、我々の不変の使命である「食の安心・安全」や「商品の安定供給」といった市場機能の維持を心掛け、社員一同邁進する所存です。

辻　泰三
京都塩干魚卸協同組合理事長

本年は2つの重要課題があります。1つ目は、条例改正です。卸売業者、仲卸業者がそれぞれの役割を堅持してきた京都市場の伝統を継承する一方で、近隣市場の動向も注視しながら協議してまいりたいと考えております。

次に施設整備です。新施設への移転時には設備投資も想定されることから、仮設期間中に足場を固めておく必要があります。当組合では、全組合員がそろって4年後に新施設へ移転できるよう一致団結してまいる所存です。

岡本　勲
京都水産物小売団体連合会会長

昨年は、市場開設１００周年に向けて第一歩を踏み出した年でしたが、台風や西日本の集中豪雨などの自然災害の多い年になりました。

当連合会の加入7団体の組合員を取り巻く経営環境は厳しさを増していますが、気持ちを新たに安心安全な水産物を市民に提供する使命を再認識し諸事業にも積極的に取り組んで参ります。

今年は、業界にとって消費税の引き上げによる軽減税率の適用などもあり大きな転換期となると予想されますが、各団体が顧客創造の原点に立ち返って消費者のニーズを新たに開拓することにより小売業界の振興・発展を支援してまいります。

引き続き、皆様方のご指導、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

平成最後の新年に際して　京都市初市式

1月5日(土)、京の食文化ミュージアム・あじわい館で京都市主催の初市式が開催され、国会議員、市会議員、府議会議員、業界関係者、京都市関係者約１００人が出席した。はじめに、門川大作京都市長が挨拶。「新年あけましておめでとうございます。京都市場は京都の誇り・宝である。昨年は、再整備がスタートし年末も順調だったと聞いている。今後も一丸となって取り組んでいく。卸売市場法の改正は、国会議員の先生に踏ん張っていただいた。今年は京都市場の活躍に向けて、条例の改正に尽力していく。3月には、梅小路京都西駅がオープンし、京都駅西部エリアの活性化が本格化する。皆様のご尽力に感謝して、京都の宝を活かしていく」と述べた。

祝辞は、業界から内田隆京都市中央卸売市場協会会長が「昨年五月に池本周三前会長がご逝去され、我々は大きな存在を失った。六月に三代目の会長に就任したものの、力不足ですので皆さんのご協力をいただきながらやっていきたい。昨年成立した改正卸売市場法のもとでは市場間競争が激しくなるため、他市場に負けない条例にしていただきたい。日本の農水産業、世界に誇る日本の食文化を京都市場が守っていくために引き続きご支援をお願いする」と述べ、続いて勝村一夫京都市中央卸売市場協会副会長が「施設整備が本格的に始まり、税金が投入されるのは、京都市民の京都市場への期待のあらわれである。期待に応えるためにも、京の台所として食の安全・安心、京の食文化を守っていく」と語った。

寺田一博京都市会議長の祝辞のあと、辻泰三京都塩干魚卸協同組合理事長の発声で乾杯。最後は原田光佑京都中央綜合食品協同組合理事長の音頭で万歳三唱が行われ、閉会となった。

挨拶する門川大作京都市長

新年を迎える年末商材せり

12月末、青果卸売場では師走恒例となる年末商材のせりが行われ、年末年始の京都を彩る食材に、せり場も華やいだ空気になった。

12月22日(土)の串柿、ミニ串柿の取引では、昨年度とほぼ同量の４８１ケースが入荷した。全体的に小玉傾向で、高値は串柿２３，５００円、ミニ串柿は１４，０００円で昨年程度となった。

12月24日(月)の葉付橙、葉付みかんのせりでは、台風の影響もあり和歌山県産の入荷量が減ったが、九州産でカバーした。せりでは葉付橙の不足感が強く、高値での取引となった。

12月25日(火)には、雑煮大根のせりが行われた。細身の大根は「角が立たないよう」まるごと一本雑煮に使われる。安定した天候により作柄は良好で、昨年を上回る３０，２３６束が入荷。規格外の太物が多く、高値も昨年を下回る４１０円となった。

葉付きみかんと葉付き橙のせり

京都水産協会　ゑびす神社に鮪奉納

1月9日(水)、京都水産協会(会長:勝村一夫)が恵美須神社の十日ゑびす大祭(初ゑびす)に合わせて鮪を奉納した。今年で12回目。約１３０kgの冷凍ミナミ鮪が同神社の本殿前に置かれ、午前9時より勝村会長及び神社関係者が参列し、鮪の奉納式が執り行われた。

翌10日には、勝村会長、古井幸生京都市中央市場長をはじめ、同協会役員が参列して、商売繁盛を願い、十日ゑびす大祭における御祈祷が本殿内で執り行われた。

参拝する勝村一夫京都水産協会会長